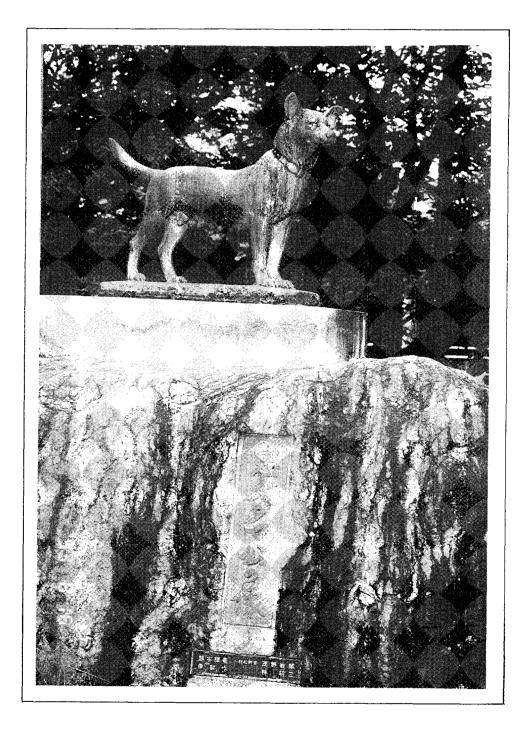
# 臥龍が丘は緑なり



## 村松の忠犬タマ

# タマ公物語

\* \* \* \* \* \* 作詞 かとう なるき 作曲

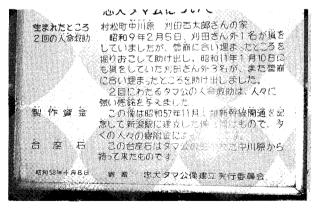
- 、 タマという名は やさしい子猫のようだけどかしてい強い犬でしたなだれに埋った飼い主を 一生懸命掘りだして助けた冬がありました人の命を呼び返す タマの叫びが聞えてきます
- 二、それから二年 四人の命教おうと またも なだれに体当り 足を血に染め一人ずつ 力のかぎり掘り出して 助けた冬がありました 小さな算体火と燃やす タマの叫びが聞えて きます
- 三、タマという名は 語りつがれてほのぼのと この世に夢を灯します 今は忠犬タマ公と 新潟駅の銅像に やさしい姿 残します よい子の胸に生きている タマの叫びが 聞えてきます



新潟駅新幹線構内にあるタマ公像説明板

# タマ公讃歌

- 一、村松町のタマ公は 雪崩がのんだ 飼い主を いのち 生命なげだし 掘り起し二度目は四人のおじさんを 救うかしてい 犬でした
- 二、話を聞いた人達は 忠犬と呼び タマ公が 語りつがれていくように やさしい姿の銅像を 町の学校に建立ました
- 芸谷の駅はハチ公で 新潟駅はタマ公で 心かよわす 姉妹駅 知らない人には教えましょう 恩を返した物語
- 四、良い子の胸にタマ公が 一緒になって 生きてるよ 口もきかぬし 動かない 銅像だけれど好きなんだ みんな歌おう タマの歌



村松公園内にあるタマ公像説明板

₹

(表紙写真について)

村松公園内にあるタマ公像

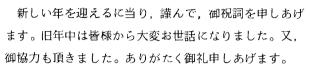
(高10回鶴巻幹事撮影)

台座には題字揮毫,村松町長 茂野敏郎, 像制作,林 昭三とある

₹. ~

## 新年のごあいさつ

# 平成6年, 茂年に寄せて



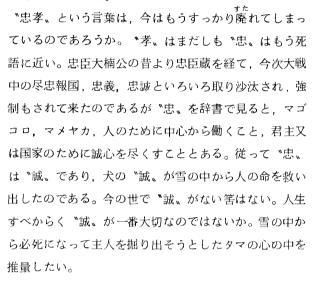
さて、顧りみれば5年は "とりの年、, はじめから "大いに舞い上る年、 "飛翔の年、とか, さかんに喧伝され、期待もされたものであったが、仲々どうして "とんだ年、であったようだ。舞い上りすぎて地に落ちた人、思惑が外れて、ショボクレタ人、果ては気球に乗って何処ぞへ飛んで行った人等々、其の他、脱税、ゼネコン、収賄と枚挙に破りないくらい不祥事もあった。只一つの朗報は皇太子の結婚ぐらいか、しかもそれも吾々にとっては高嶺の花のお祝い事でしかないとも云えよう、そして今年は戊の年、世間は何と言ってこの年を迎えるであろうか、まさか、安産の年とは言わぬだろうが「ワン」と啼くか、「キャン」と啼くか、祈りにも似た期待をもって迎えるところである。

さて、会報の事だが、編集するに当り、何時もの事ながら表紙写真の選択には苦労する、今回は躊躇なく犬のの実真を取りあげる事になった、忠犬タマ公(別掲)が脳っ裡にあったからである。私は残念乍ら、犬の銅像は上野の西郷さん、渋谷のハチ公、そして村松のタマ公としか知らぬ。前二者は別に有名であるが、私は中学の五年間、タマ公の話は聞いた事も、教わった事も無かったし、同窓会に関与するようになってから、始めて知ったわけである。西郷さんの犬は只、散歩に連れられていっただけ、ハチ公は還らぬ飼主を毎日、渋谷駅頭に迎えに行っただけ。それだけの話なら他にも、もっと多くの美談がある筈である。然しタマ公は違う。人の命を二度に互って助

# 東京支部長佐伯益一

けている。

正に文句なしの忠犬であろう。 そこで私は思う。



さて最後になったが、

同窓会東京支部では年々大会が盛大になり、組織も強固なものになって来ている。そして集まる皆さんがホントに楽しそうに、働き、談笑して下さるのである。これも幹事役員の皆さんが誠心誠意、尽くしてくれるからと思う。赤山会然り、かんろく会然り、他の同期会とて例外ではなかろう。そして、本年も又、母校の活躍、同窓会の発展を願い、お互いの健勝を祈りながら会員の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思う。

どうぞよろしくお願いいたしたい。

ふと, 思い出した。冬の寒い朝, 新しく降り積った雪の上, 腰をふりふり忠孝と染めた小学校の時の事を。

新年おめでとうございます。 本年もよろしくお願いいたします。

平成六年元旦

新潟県立村松高等学校同窓会東京支部 役員一同

## 第36回 東京支部大会



乾杯音頭をとる水尾広吉先輩(中13回卒)

会場の都合によって約一ケ月遅くなった東京支部の本年度第36回大会は七月三日,上野不忍池畔の池之端文化センターで開催。

梅雨の時節で心配された雨もあがり、会員122名、来 賓6名の合計128名が出席、広い会場も狭く感じる程の 大賑わいであった。大会はプログラム通りに進行、型通りの挨拶のあと、ジャンケンゲーム、小沢幸子さんの演 歌出演、会員及び津川高からの寄贈品の抽選会があり場 内は熱気が熱気をよび、盛況その極に達し歓を交える事、約3時間余、恒例の佐伯支部長の手締め、徳橋校長の万才三唱で大会の幕を閉じた。後はデガカ五々、二次会、同期会と次の会場へ移動、おそらく宴は深更にまで及んだことであろう。一幹事としての感想であるが大会出席者が120名を超えると経費等に心配の要も無く、支部会計も楽になると思う。来年度は是非共150名位の方には出席してほしいと願う。

## 「覇権をゆずることなかれ!!」

平成5年7月3日(土)ありがたいことに昨夜からの雨もあがり、役員は午前中から大会準備に追われている。午後2時、大会出席者の出足は早く、ロビーで賑やかに談笑している。定刻午後3時、開会セレモニーに続き「ふるさと」うさぎ追いし……の合唱、乾杯、余興、ゲーム、抽せん会と続く中、本大会から、卒業期別の出席者数が発表された。第1位、高第10回17名、第2位高8回16名、第3位、第12回12名、最多出席の栄誉に輝いた高10回生が壇上に上り佐伯支部長から表彰された。記念撮影の直後、幹事の鶴巻浩君を10回生が胴上げするハプニングが起った。そして校歌、応援歌と続き、盛会裡に大会の幕を閉じた。尚、今大会の案内状の中に「第何回卒のお名前と電話番号」を記したメモを同封した処、各卒業期ごとの電話での誘い合いが活潑に行われ、その結果、多数の大会出席につながったことと思われる。

第10回生は「覇権をゆずることなかれ」で来年も又頑張って欲しいし肉薄の高8回,高12回……各卒業期の諸兄,諸姉も尚一層の奮起を期待するものである。(一幹事)



出席者最多の高10回生17名が佐伯支部長を囲んで……



飛び入りで尺八演奏の滝沢信喜さん (高10回)

## 支部大会出席者の皆さん

(敬称, 略)

#### ◎旧中の部 (28名)

水尾広吉,小田恕哉,見方謙策,千代国一,佐久間精一, 横松宏平,亀嶋 謙,中村倉吉,堀 哲二,芳原英男, 武藤三郎,伊藤秀男,佐伯益一,西山荘平,吉田公男, 松尾 貢、相田幸四郎,岩見益教,佐藤豊夫,関 建世, 笠原健二郎,伊藤勇五,加藤三代太,斉藤和男,中村雅明,関八十一,平上 憲,高久貞夫

## ◎旧高女の部 (8名)

岡本和子,佐藤玲子,鈴木節子,小林早月,一氏愛子,原ヤス子,新保清子,佐野幸子

#### ◎高校男子の部 (60名)

青木 猛,篠川恒夫,杵渕政海,丸山貞次,堀川俊郎,桜井 貫,簗取正通,亀山知明,土田 猛,関 孝世,瀬倉武志,根本俊夫,松田 博,渡辺八郎,今井道夫,大島惣四郎,加藤清治,坂上卓夫,鈴木多喜男,杉山喬,鶴卷統三,長谷川安志,岡村嘉志,鈴木健司,沢出赳允,佐久間英輔,八木又一郎,加藤喜七,伊藤 馥,塚田勝,佐藤匡秀,関 和也,高地 彰,鈴木輝雄,堀 直昭,村木栄四郎,山崎輝雄,吉井 清,石黒四郎,鶴巻 浩,関谷雄二,近藤尚志,小日山芳栄,佐野俊夫,滝沢信喜,新保 優,米山 正,寺山和夫,宮沢正由,安中啓作,田代信雄,佐藤 赳,今井英雄,佐々木秀三,茂野本史,木村安雄,武藤正昭,笠原静夫,山田利栄,石井典雄。

大嶋 エミ, 佐藤八重, 杉山和子, 木村孝子, 岡部ユキ, 久我マキ, 波田ミサエ, 山西愈佐子, 高瀬笑子, 福田ジ

ュン,飯利 幸,北村剴枝,小島典子,寺山征子,真水 道子,浜田寛子,山下由起子,木村園子,上杉礼子,近 藤燦子,桑原トム,徳永道子,中島和子,松尾恵子,渡 辺厚子,小沢幸子

#### ◎来賓の部 (6名)

茂野敏郎 (本部同窓会長)

徳橋時男(学校長), 酒井重雄(同窓会担当教輸)

渡辺貞夫 (津川高校同窓会関東支部長)

赤城元男(同幹事長), 波田野亮一(同幹事)

◎男子88名, 女子34名 計 122 名

来賓 6 名 台計 128 名

◎大会のアトラクションとして抽籤用の物品寄付をお願い致しました処、多くの方から景品が寄せられました。お蔭で大会が盛り上りました。厚く御礼申しあげます。(1) ジャンケンゲーム賞品、\*新発田の赤い酒、3本、

佐伯支部長,優勝者3人に。

(2) 抽籤用品, 男子21名, 女子7名, 計64ヶ

寄贈者の氏名のみにて物品名は省略させて頂きます。 小田恕哉,中村倉吉,堀 哲二,武藤三郎,佐伯益一. 松尾 貢,伊藤勇五,斉藤和男,岡本和子,佐藤玲子, 小林早月,鈴木節子,篠川恒夫,関 孝世,渡辺八郎, 沢出赳允,佐久間英輔,塚田 勝,関 和世,山崎輝雄, 堀 直昭,鶴巻 浩,田代信雄,鈴木健司,岡村嘉志, 真水道子,小島典子,小沢幸子。

津川高校同窓会(清酒一升及びクッキー)

以上

## 第36回 東京支部大会収支決算書

平処5年7月3日 於池之端文化センター

収	入 の	部 (円)	支	出の	部 (円)
大会々費		1,030,000	大会々場費		
男子 9,000			会場支払	681,520	703,644
@ 88名	792,000		持込洋酒代	22, 124	
女子 7,000		,	準 備 会 費		72,882
@ 34名	238,000		通 信 費		47,680
祝儀		50,000	記念品代		26,000
同総会本部	30,000		謝礼		94,260
津川高, 同窓会	10,000		雑費		30,633
波田野亮一氏	10,000				
小 計		1,080,000	小 計		975,099
			剰 余 金		104,901
台 計		1,080,000	合 計		1,080,000

## ありがとうございました。

平成5年度会費納入の皆さん(其の一)

#### □郵便振込み

(敬称略,振込順)

#### ◎ 旧中の部 (66名)

相田幸四郎,武藤三郎,宫嶋八称,関谷捨三,熊倉 悟,吉田公男,成海正弘,亀嶋 謙,伊藤秀男,芳賀健一,山口三郎,片桐賢太郎,村田泰次郎,寺田徳隣,横松宏平,松田長四郎,中野 博,福原平八郎,相田和平,西山荘平,松尾 貢,団 順一,宮本 昇,佐久間精一,笠原健二郎,地濃昇一,斉籐誠七郎,関山健芳,高久貞夫,佐伯益一,寺田徳和,芳原英雄,五十嵐一郎,相田忠亮,斉藤朝之,斉藤和男,加藤 豊,藤原良造,岩見益教,相田英三郎,吉田正平,岡村嘉志,渡辺文男,堀哲二,川瀬五郎,二平 晶,丸山一夫,小浜毅郎,長尾昭次,安中盛介,平上 憲,板垣文平,佐久間二郎,千代国一,大橋文夫,小島真一,小田恕哉,中村雅明,中村倉吉,小柳 実,奈良泰夫,田代正夫,伊藤勇五,川崎進一,松尾昭夫,渡辺方夫

#### ◎ 高校男子の部 (74名)

塚田 勝, 弦巻 等, 堀 直昭, 関塚 豪, 松尾保司, 大橋秀雄, 伊藤郁夫, 五十嵐健, 今井道夫, '沢出赳允, 高橋研治, 高地一郎, 佐藤匡秀, 高岡雄三, 山崎輝雄, 堀川俊郎, 武藤正昭, 近藤英洋、高地 彰, 鶴巻 浩, 篠川恒夫, 坪谷次郎, 岡田見津夫, 瀬倉武志, 大西範孝, 笠原大四郎, 八木又一郎, 田代信雄, 梅田久次, 石井典雄, 大橋貞夫, 根本俊夫, 川合敏男, 酒井俊昭, 渡辺八郎, 村川五郎, 杵渕政海, 小日山芳栄, 関 孝世, 岸沿武, 松井 孝, 青木 猛, 二宮文三, 石黑四郎, 寺山和夫, 亀山知明, 杉山 喬, 土田孝志, 鈴木輝雄, 新井康夫, 近藤毅夫, 土田 猛, 三室茂和, 山中 孝, 富田幸夫, 近藤毅夫, 土田 猛, 三室茂和, 山中 孝, 富田幸男, 加藤清治, 大江佳一, 浅井昭男, 鈴木健司, 佐々木秀和, 青木敏和, 関谷雄二, 佐々木秀和, 長谷川五郎, 倉田健五, 松尾, 伊藤勤吾, 鈴木多喜男, 川村莞爾, 松尾真一郎, 沢井 昭, 岩城 弘, 畔田昭義, 熊倉芳夫,

#### ◎ 旧高女の部 (18名)

横溝田鶴,村田瑠都子,田村ミツェ,佐野幸子,熊倉芳枝,新保清子,新保ミワ,佐藤玲子,丸山セイ子,内田道子,一氏愛子,堀 和子,石井洋子,近藤昌子,大橋玉枝,藤崎トョ、岡本和子、小林早月

#### ◎高校女子の部 (35名)

岡野斉子,田中富子,近藤燦子,山下由紀子,斉木明子, 真水道子,小沢幸子,鈴木則子,荒瀬喜美子,片柳ムツ, 成爪圭子,荒井るり子,宮川陽子,出ロテル,深見洋子, 寺山征子,住々木恵美,徳永遠子,阿部ミサ子,緒形美 恵子,袖山幸子,竹島幸子,北村凱枝,吉井祐江,渡辺 厚子,水野睦子,斉藤英子,大野靖子,松尾和子,小島 典子,飯島玲子,松尾恵子,高橋睦子,塔方康子,松本 知子

#### □支部大会当日受付け

◎旧中の部 (5名)

鈴木節子,原ヤス子

水尾広吉,見方謙策,佐藤豊夫,加藤三代太,関八十一

◎旧高女の部 (2名)

◎ 高校男子の部 (28 名)

築取正通,丸山貞次,大島惣四郎,佐久間英輔,鶴巻旒三,坂上貞夫,関 和世,山田一男,新保 優,米山正,安中啓作,今井英雄,吉井 清,松田 博,茂野本史,近藤尚志,宫沢正由,佐野俊夫,村木栄四郎,伊藤 馥,桜井 貫,佐藤 赳,笠原静夫,滝沢信喜,加臻喜七,山田利栄,長谷川安志,木村安雄

#### ◎高校女子の部 (16 名)

佐藤八重、大嶋エミ、杉山和子、山西愈住子、久我マキ、波多ミサエ、福田ジュン、浜田寛子、中島和子、高瀬笑子、岡部ユキ、上杉礼子、木村康子、銀利 幸、木村孝子、佐野美江子 以上 計51名

合計 244 名(10月7日現在)

## 平成5年度寄付金納入の皆さん(其の一)

20,000円 亀嶋 謙

10,000 / 奈良泰夫, 岡部ユキ, 伊藤淳一

7,000 // 大橋文夫,中村倉吉,田代正夫,堀 哲二, 加藤 豊,堀川俊郎,佐藤匡秀、杉山 喬, 山崎輝雄

5,000 " 吉井 清,阿部善磨 (同窓外)

3,000 // 川瀬五郎,中村雅明,笠原健二郎,高地彰. 高地一郎,五十嵐健,大橋玉枝, 岡本和子, 佐藤玲子,鈴木節子,一氏愛子,斉藤英子, 渡辺厚子,渡辺方夫

2,000 // 小田恕哉, 関谷捨蔵, 関山健芳, 芳原英男, 佐久間二郎, 武藤三郎, 西山荘平, 吉田公

男,伊藤秀男,地濃昇一,青木 猛,川合敏男,村川五郎,亀山知明,長谷川五郎,渡辺八郎、沢出赳允,梅田久次,大橋貞夫,小日山芳栄,寺山和夫、畔田昭義,佐々木秀和,新保ミワ,内田道子,佐野幸子,新保清子,横溝田鶴,深見洋子,岡野斉子、寺山征子,真水道子,小島典子,緒方康子1,000円 横松宏平,中村倉吉,佐伯益一,西山莊平,松尾 貢,佐藤豊夫,伊藤勇五,斉藤和男,高久貞夫,青木 猛,篠川恒夫,関 孝世,

渡辺八郎,鈴木多喜男, 沢出赳允,八木又

一郎, 塚田 勝, 山崎輝雄, 鈴木輝雄, 石

黒四郎,鶴巻 浩,田代信雄,寺山和夫, 加藤喜七

以上合計 延87名 257,000円

## [同窓会本部総会]

本年度同窓会の総会は会則に定められた 8月17日午後4時から村松町 \*名月、で開かれました。当日は生憎の雨模様で出席者は割合と少なかったが、議題も、決算、予算案が原案どおり決定した外、昭和25年以来設置されていた被服科が平成6年3月末をもって閉科されることとなり、何か記念になるものを残そうということが決まりました。

あとは懇親会に入りましたが、何時もお会いする顔馴染みの方が少なかったのは残念でした。東京支部からは中村事務局長、鈴木、鶴巻、深見の各幹事、私の五名が 出席いたしました。

前にも書いた事がありますが、総会開催日を17日にてだわらず、その前後の土曜日、時間も早目に開催するようにしたら如何なものでしょうか。もっと集りも多くなるし、時間的に余裕も出てくるのではないかと思います。かつて本部の二、三の方に話をした事もあるのですが一度相談してみて頂きたいと改めてお願いしたいと思う。歌一つ出ない懇親会や二次会では折角、東京や、遠い所から出席した者にとっては寂しい気がいたします。

(文責, 佐伯)

## 〔赤山会 例会〕

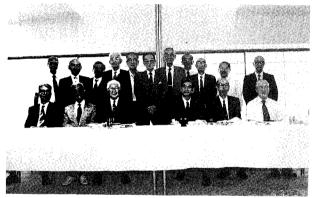
## 見方謙策,千代国一両氏の喜寿のお祝いと 赤山会秋季例会

永く続いた永雨もやみ、秋の快晴に恵まれた九月十八 日(土)表記の会が、市ケ谷私学会館、で開催されまし た。出席は十七名で、定刻午後一時、亀嶋 謙会長より 両氏への喜寿のお祝いのことばと例会の挨拶があり、祝 辞として小田恕哉氏(旧中十六回卒)の爽やかにして軽 妙酒脱な話ぶりに笑いを誘い、和やかな雰囲気となり続 いて高価な月謝を払ったと思われる横松宏平氏(旧中二 十回卒)の渋い美声の「さんさしぐれ」の祝い歌に聞き ほれ会は進行、佐久間精一幹事長から両氏に記念品の贈 呈、新入会員伊藤秀男氏(旧中二十七回卒)の紹介が終 り、見方、千代両氏からの謝辞のあと、松田長四郎氏 (旧中二十四回卒) の乾杯の音頭により懇親会に入りま した。昔の良き時代の話に花が咲き、お互いに健康を確 かめあい、これからの夢を語りグラスを傾け合う等、会 は盛り上り話は尽きない様でした。途中、同窓会佐伯支 部長より第36回東京支部大会及び本部総会の経過につい て説明があり支部大会が盛大に終了した事のお礼と併せ て来年の大会にも変らぬご協力を頂き度い旨の要請があ りました。

※ 氏名の重複している方も居られますが、会費振込の 際と支部大会当日の分であります。

## [ 県立安塚高校同窓会へ表敬 ]

東京新潟県人会の事務局長を務めておられる竹内富男氏が東京支部長の同校同窓会が、7月17日午後1時半より赤坂の石垣記念ホールで開催され、招待のあった東京支部からは佐伯支部長、鈴木、鶴巻の両幹事が出席いたしました。支部結成40周年とかで出席者も多く、又郷里、学校からの来賓も多く仲々の盛会でした。お互い名刺を交換し持参の支部会報を夫々贈呈いたしました。話は県下高校同窓会の大同団結の夢などを中心にして友好の輪を拡げる事が出来、大変ゆ快でした。私たちは午後3時からの幹事会を控えていたため残念乍ら途中退席することになりましたが、今後私達の同窓会と同校同窓会の友好の評が益々深まってゆく事を期待しております。



其の後全員で記念写真を撮り(武藤三郎氏旧中二十六回)旧校歌を合唱して四時頃,めでたく解散いたしました。

#### ※喜寿の両氏略歴

見方謙策氏(旧中18回卒)

旧横浜高工卒,前松高同窓会東京支部長,松高創立 80周年記念雨天練習場建設に当り暖房機寄贈など多 大な貢献をされた。現日精オーパル㈱取締役社長と して産業界に活躍されている。

#### 千代国一氏(旧中18回卒)

旧大倉高商卒,日本を代表する歌人で,宮中行事 「歌会始」の選者,現代歌人協会理事,明治記念綜 合歌会委員等を務められ,其の他数多くの受賞,歌 集の出版も多い。

幹事 堀 哲二記 (旧中24回卒)

#### ※〔広報部より〕

支部会報第8号(平成2年新春号)に,昭和8年第18 回卒業生の優等生紹介記念写真として見方,千代両氏他 三氏の写真が掲載されております。

## お便りの中から

◎ 前略,7月3日第36回東京支部大会に学校から2人 もお招き与り誠にありがとうございました。心暖まる おもてなしに楽しい一時を過ごさせていただくことが できました。厚く御礼申しあげます。

御参会の皆様の「ふるさと」の合唱に「いかにいま す父母、つつがなしや友がき」との熱き思いが伝わり 「山はあおきふるさと、水は清きふるさと」と歌われ るころには、故郷に在る者といたしましても胸迫るも のと感じました。特に今回は遠路から御参会の方も多 いとお伺いし、同窓という名のもとに、かくも多数の 方々が御多忙の中を馳けつけ、旧交を暖め、懐旧と親 睦と情報交換とに一時を過ごされることはすばらしい ことと感激した次第でございます。これも偏に佐伯支 部長様はじめ役員諸氏, 各期幹事の方々の並々ならぬ 御尽瘁の賜と敬服致しました。現に生徒を預る者とし ましては卒業後母校を懐しむことができるよう有意義 で充実した高校生活を送らせたい、そのためにも精一 杯の努力をいたしたいと肝に銘じさせられました。本 当にお世話になりありがとうございました。心から感 謝申しあげます。役員、幹事の皆様にもよろしくお伝 え下さいますようお願い申し上げます。最後になりま したが東京支部の益々のご発展と佐伯支部長様はじめ 役員,幹事の方々、会員の皆様の一層のご健勝とご多 幸を祈念申し上げましてお礼といたします。

#### (村松高校 校長 徳橋 時男)

◎ 前略,先日は松高同窓会東京支部第36回大会にご案内をいただき,出席させていただき厚くお礼申し上げます。

会長先生のリーダーシップにより開催までの諸準備 等並々ならぬご苦労と当日の見事な演出に対し敬意を 表します。会員各位様の情熱と結束力,気魂に敬服い たします。ひとえに会長先生のお人柄,幹事の方々の 母校を偲び,同窓会のつながりを大切にした熱い想い の現われと拝察いたしますと共に会長先生の統率力と 旺盛な意欲に敬服いたしております。ありがとうござ いました。この度は校長のお供でしたが大変有意義に 過ごさせていただき更に大変ご馳走になり重ねがさね 心より厚くお礼申し上げる次第です。会長先生はじめ 幹事及び会員の皆様の今後益々のご多幸,ご発展を心 より祈念申し上げお礼といたします。

#### (村松高校 教諭 酒井 重雄 高11回卒)

◎ もう着くころかな、と思待ちにしていた「臥龍が丘は緑なり」が私の気持を知っているかのように七月中

旬我が家を訪れてくれました。読んでみると東京支部 のみなさまのご活躍をはじめ佐伯支部長の想い、徳橋 校長の願いなど、松高を支える人々の心の絆に熱いも のを感じたところです。

私も折につけ村松時代を思い出しております。今年の新採用教員に対する講話の中でも緑と人の心の豊かさのある村松のことに触れました。六月には松中に一時期お世話になった兄をつれて以前住んでいた家と慈光寺を案内しました。

支部長はじめみなさまのご健勝を願っております。

#### (在新発田市 前校長 佐藤 義雄)

◎ 先般は名支部長のお蔭で盛大な同窓会が開かれ厚く 御礼申しあげます。写真、有難うございました。今後 共何卒宜敷くお願い申しあげます。

#### (旧中16回 小田 恕哉)

◎ 異状とも言えるお天気が続いており、北と南での災害で日本列島は嘆かわしい悲鳴の叫びが充満しております。何とかならないものかと祈る思いの昨今でございます。

支部大会ではいろいろと大変お世話さまになりまして本当にありがとうございました。支部長の陣頭指揮よろしきを得て役員の皆様のご苦労もみのり誠に盛会であったことを衷心よりご同慶に存じております。それが次年度にも必ずや大輪の花開く種になる事と信じます。支部長始め幹事の皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも宜敷く。 (旧中26回 武藤 三郎)

◎ 同窓会東京支部会報御恵送感謝。相変らず誠意をもって人の世話をしておられる様子,敬意を表す。浅草の新年会で「そろそろ歌,語るか」の言に思わず笑った。佐伯健在なりと──。当方無事。

#### (在新潟市 旧中27回 五十嵐喜作)

- ◎ 田舎から戻りました今日、嬉しいお便りを頂きまして有がとうございました。グリコのキャラメルのように一回の参加で二度おいしい思いをさせて頂きました。感謝申しあげます。又、同窓会では金魚のふんの様に沢出先輩についてお邪魔をしておりますが、今後共よろしくお願い申しあげます。(高9回 高瀬 笑子)
- ◎ 盛大に行われました過日の松高同窓会東京支部の大会当日の出来事が楽しく想い出されます。大変お世話になりました。又、次回お会いできますことを楽しみにしております。手仕事のパワー、お手伝いしますのでお声をかけて下さい。 (高9回 福田ジュン)
- ◎ 先日はありがとうございました。みんな心の底から

くつろいで楽しそうでしたね。あれだけの会を準備運営されるのは本当に大変だと思いました。今後共よろしく。 (高10回 山下由紀子)

- © 支部大会,その後の役員会といろいろとお世話様になりありがとうございました。皆で楽しく盛大に終れたのも支部長さん始め皆さんのお蔭といつも感謝しております。 (高10回 小島 和子)
- 写真ありがとうございました。早速皆様に送ります。 さぞ喜ぶ事と思います。とても楽しかったというお便り、お電話を頂戴しました。来年はもっと多勢の方に 声をかけて集って頂こうかと話しています。来年は12 回生の皆様を支部長さんに紹介致します。最早来年が 待遠しいです。ありがとうございました。

(高12回 中島 和子)

- ◎ 松高の同窓会では支部長様始め皆様方に大変お世話になりましてありがとうございました。今回もなつかしい方々とお話が出来てとても嬉しく思っております。私も益々精進する所存ですので今後ともよろしくお願い申しあげます。 杉 幸子(高21回 小沢 幸子)
- ◎ 支部大会での高2回生の写真ありがとうございまし

- た。御自愛の上で健勝でお過し下さい。当方これまで にない保険成績の下りようですが、相変らず元気で頑 張っております。 (高2回 青木 猛)
- ◎ 写真ありがとうございました。ワガママ者にいつも 心遣いして下さいまして感謝して居ります。お蔭様で 楽しい日を過させていただきました。気候不順の折か ら御自愛下さいませ。 (旧高女25回 小林 早月)
- © 支部会報ご送付ありがとうございました。小黒寿夫 君の記事をわかり易く修文、修正していただき深謝い たしております。

同級生の岡村逸夫君の入隊から戦死の状況に至るまでの原稿が仕上りましたので、お送りいたします。次回以降は何れも"甲飛、に入隊され、すべて戦死、又は病死された次の方々のことを順次書いてみたいと思っております。

加藤政治君(中28). 杉崎栄二氏(中27), 河内正 勝氏(中26), 剣持三男也氏(中26), 皆川三郎氏 (中27), 高松正男氏(中24), 豊島商吉氏(中24), 江花国吉氏(中23), 笠原正敏氏(中23) 以上

(中28回 斉藤 朝之)



再び、歳時記風土 について

平成元年五月一日の新潟日報に載った同窓長崎 浩氏(故人,旧中11回)の詩で福原平八郎氏(旧中26回)から送られたものを支部会報第14号(平成5年新春号)に一部紹介したが、其の後ご子息の長崎高志氏(高11回卒,新津市在住)から懇切なお礼状が届き、平成五年春,村松西公園(城跡公園)に詩碑が建立される旨、記されて

あった。(会報15号にも掲載)そこで8月,広報部,鶴巻 浩幹事に依頼して帰省の折撮影していただいた。長崎氏が同窓である旨,知らぬ人も多いと思うが同窓として誇りに思う。同じ同窓で前にも紹介した千代国一氏(旧中18回)の詩碑のすぐそばにある。

## クラス会便り

## ◎旧中27回 クラス会

昭和17年卒業の旧中第27回生のクラス会が9月27日,新潟が当番で西蒲原郡岩室温泉シンユ館で開かれた。出席者は25名で午後2時,新潟駅から迎えのバスで宿へ向う。途中めまぐるしく変遷しつつある沿道の説明を聞きながら弥彦神社へ先づ参拝、6時から始まった宴会は,もう例によって例の如く,折角宿がサービスしてくれた芸者さんもそっちのけ,校歌,応援歌,カラオケに精を出し,最後は、どういうわけか「麦と兵隊」の大合唱。大半が兵隊に征った者の懐旧か。床についたのは深夜,朝食は又,酒で始まり再び宿のバスで角田山の日蓮上人が潜んだといわれる洞窟を見て新潟駅へ,そこで解散,一部は「豪農の館」見学に廻った。平成6年は東京の当番となる。東京支部からは中野,西山,伊藤,佐伯の4人が出席した。

駄足ながら書き加えさせて頂く。

「麦と兵隊」は軍歌として親しまれているが、私もよ

#### ◎高10回3年3組クラス会

村松高校第10回卒業の私達3年3組のクラス会を8月17日に村松を会場に開催いたしました。急な呼びかけでしたので12名程の出席でしたが楽しい一日でした。二十数年前の学生服のあの頃の姿と一致する人もあり、中にはなかなか思い出せなかったりで……。髪に白いもの、ほぼ無くなりかけた人、老眼鏡の世話になる私達でしたが、話の内容はもうとっくにセピア色した懐しい学生時代の事ばかり、先生に叱られた事、サボって何をしていたとか、みんなあの頃に戻って目をキラキラさせ、何時間おしゃべりしても尽きませんでした。同じ思い出を持つクラスメイトって本当に不思議なくらい安心感と暖かさがありますね。何より嬉しく思えた事は、各々人間として仕事と家庭を大切に、毎日を充実させている姿で年輪の重みがあるのだなあと感じました。今回は担任の梅田先生が病気療養中との事でお呼び出来ませんでしたが、

#### ◎高10回3年4組クラス会

8月21日、私は会場となった村松 \*松の家、さんの二階の部屋の入口に頑張って座っておりました。階段をあがってくる出席者の皆さんの様子がすぐわかるのです。ア、ちょっと後退気味で面積が広くなったおつむがあらわれました。まあー、お忙しいところありがとうございました。そして又、昔の彼女からは想像出来ない様なふくよかさ、まあー、ホントに遠い処をよくおいで下さいました。そして、\*ええ!!まあ、という石塚先生。あの昔のダンデーは何処へいっちゃったのかしら。2時に始まったクラス会は、\*緑濃き臥龍ケ丘に、の大合唱で一次回は二次回へと移っていったのです。

佐久間順子(在村松)

く歌う方だ。何しろ文句が良い、風流,友情,郷愁,責任感を兼ね備えた歌であるからであろう。軍歌は?と,会社の若い者に訊いてみた。「私は軍歌というよりも一つの流行歌,演歌としてうけとめています。だから好きです」と答が返って来た。 (佐伯 記)



旧中 27回 クラス会



高10回 3年3組クラス会



高10回 3年4組クラス会

#### ◎高6回3年1組クラス会

8月14日(土) PM5:30から,新潟東映ホテルにおいて、クラス会を開催した。夏とはいえ天候が悪く,曇り空の中,東京をはじめ,遠く滋賀県,静岡県からも出席して久しぶりに旧交をあたため,有意義な時間を過ごすことができ,幹事の方々に厚く御礼申しあげます。出席者15名,率35%と低率だったが、お盆で孫が来たとか、留守番とかの理由で欠席が多かったので次回は開催時期の検討が必要と思う。

我々も間もなく還暦を迎えようとしています。睡眠, 食事. 仕事, 連動とバランスを保つよう気をつけながら 子供や孫にバカにされないよう, 若さを保ちつつ, ます ます元気で暮らしたいと思っています。

次回は大勢の方々の出席を期待して, 皆様のご活躍と

#### 遠暦祝開催について

高6回卒業生の皆様へ……1995年(平成7年)私達は還暦を迎えます。「還曆を祝う会」の世話人会が発足し、全員参加をめざし予めお知らせいたします。

1. 日 時 1995年8月20日頃

2. 会 場 新潟県月岡温泉「ホテル泉慶」

## 寄稿 地球上の位置の考察について

地球上での方位や地理的位置は緯度と経度で決まる。地図を 見ると緯度や経度の線が入っているが、日常我々の生活には殆 んど関係無いと思う。

しかし、北海道や沖縄、海外に行く時には出発前に気温や服装が気になって緯度を調べたりする。

また,緯度,経度で時刻や季節,気温など現在住んでいる所 と比較してみるのも面白いと思う。

気候や気温は一般的には緯度や高度差で違ってくる。緯度を調べてみると、新潟県庁正面玄関の位置は、北緯37度53分58秒、東経139度01分37秒で、緯度はほば38度線である。村松町役場の位置は北緯37度41分26秒、東経139度10分40秒で県庁より12分32秒南に位置している。

村松と同じ緯度には、どんな国や都市があるのか地図で調べた結果、意外な国や都市があった。

村松から西へ行くと弥彦町から日本海を渡り、韓国の首都ソウルから黄海を通り黄河河口から中国大陸を進みタクラマカン砂漠・パキスタンの北、パミール高原からロシアに入りカスピ海南部を横断してトルコを経てエーゲ海を渡ると、ギリシャの首都アテネ。

イタリヤを横断し地中海を渡ると、イベリア半島西部ポルト ガルの首都リスボン。

大西洋を横断してアメリカ大陸へ上陸, 合衆国の首都ワシントンのやや南。セントルイスからカンザス州を経てロッキー山脈を越えると, 気候温暖, 風光明媚なアメリカ西海岸, 国際的

#### 40年前の写真

高校 6 回卒業生が学校を出てから40年になりました。 写真は 1954 年撮影・40年前のものです。

昭和28年度「野球部送別会」記念写真

(昭和29年1月16日, 16番教室)

昭和28年度「全国高校野球・新潟県大会」優勝旗が二列目左 に置いてある。

前列 3 年生……左から 5 人目,石本事務官,次の 6 人目は,安中先生(教頭・野球部長)



高6回3年1組クラス会

ご健康を祈りながら再会の日を楽しみにしています。 (東京支部・沢出赳允)

3. 御祓い 当日「ホテル泉慶」にて

4. 会費 25,000 円程度

5. その他 具体的に決まり次第,お知らせいたします。

各クラス担当者から通知しますので,よろし

くお願いします。

#### 高6回 沢出 赳允

観光都市サンフランシスコ。

太平洋は北緯37度40分線上には島がなく大海原が続く。地球 を一回りして福島県に上陸し福島市を通り裏磐梯の桧原湖を経 て、東蒲原郡鹿瀬町を通り村松へ戻る。

一方、地球上の南北の線,経度はどうか。同じ経度でも北半球と南半球では季節が正反対であるが、時刻は同じである。東経139度10分40秒の線上を南下すると赤道を越えてニューギニア島、オーストラリアの真中を通ってインド洋に出て南極大陸へ上陸する。

#### 南へ……

村松から北の方角は五泉であることは誰でも知っている。反 対に南の方角はどうか、地図上で辿ってみよう。

南へ行くとすぐ、白山(1012m),栗ヶ岳(1298m)を越えて守門岳(1537m)へ。新潟県と福島県境に位置する毛猛山(1517m),奥只見湖から新潟県と群馬県境の平ガ岳(2141m),尾瀬ヶ原の西方に聳える,至仏山(2228m)。上州の名山,赤城山(1828m)を越えると関東平野に入る。群馬県伊勢崎市,埼玉県本庄市,寄居町から正丸峠を越えて東京の御岳山へ。西多摩五日市町から神奈川県に入って相模湖から丹沢へ。

丹沢山(1567 m)の山頂からやや東側を通って小田原市酒 匂川河口へ。相模湾に出て真鶴岬をかすめ、熱海沖に浮かぶ初 島の東海岸を通り伊豆七島の東京都神津島に上陸する。



中列 2年生(高 7 回卒), 後列 1 年生(高 8 回卒) (所蔵,沢出赳允)

寄稿

## 国家存亡のとき 村松中學は…

第10回卒 鶴巻 浩

「旧制中學は……。」と、よく先輩諸兄から聞くが、私たち高校卒業のものには、ただあたらない想像をするだけである。その想像を手っ取り早く結びつくのはあの「坊ちゃん」を初めとする漱石の作品でしかなく、これもその時代によっては、似て非なるものであったに違いない。

そうであっても, きっとこんなだったろうと, 多分に ロマンティックな想像をしたくなる。

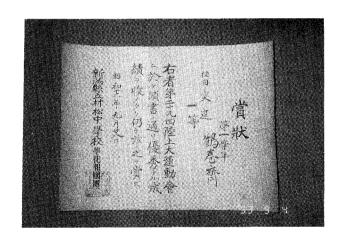
「弊衣破帽」で、冬でも素足に下駄を履き、マントを翻して、街を闊歩する學生の姿が浮かんでくる。

## そのー 賞状「突進」

これは村松の大火に辛うじて焼失を免れたものの一つで、昭和16年9月、日中戦争からやがて太平洋戦争へ突入する前夜ともいえる時期の運動会の賞状である。

種目は「突進」とあるが、100 m競走であったという。 校長名などはなく「學徒報國団」とある。それ以前は 「學友会」といったらしい。兄の話によれば最上級の5 年生には「白兵戦一接戦」という種目があったそうだ。

これはもう少年らしい夢あふれる運動会ではなく,や がては戦場へ赴かねばならないことを自覚させられた行 事だったことが窺える。



資料その一が示すように、我國が刻々と引き返せない 破滅への道をひた走り、少年らしい夢を否定しなければ ならなかった時、しかし、資料その二のように、それで も良心的な次元の高い教科書に接し、諸先輩はどのよう な心情でその青春時代を送られたのであろう。 多分に自己顕示欲の表れであったろうが、「質実剛健」を旨とする当時の學生の気概でもあったように思われる。 当然、桁はずれの悪業も多かったであろうが、それを 上廻る勉學をしたであろうことは、輩出した諸賢に接しても想像に難くない。

今夏帰郷の折、往時の村松中學の様子をいくらか想像できる2つの資料に出会った。それは私の兄の中學時代に関わるものであって、上記の様なロマンティックなものではないが、具体的な資料は多くを語ってくれると思った。

#### その二 岩波書店刊「國語」

当時の國語教科書全十巻であるがこれは復刻版である。 若草色の古代模様の和綴じの品格のある教科書である。 兄はこれらの教科書に限らず、ほとんど諸先輩からの 軍借で済ませたそうで、この復刻版が出た時躊躇なく購

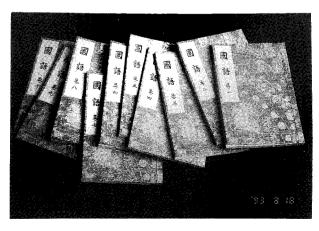
拝借で済ませたそうで、この復刻版が出た時躊躇なく購入し、初めて新しい教科書を手にした喜びを味わったという。

教科書は巻一から巻十まであり、1學年で2巻、5學年で巻十となる勘定である。ぱらぱらと内容をみると、古文から現代文学までの作品や、著名な学者達の評論が載っており、相当に高い水準の教科書であったことが推察できる。

兄が語る処によれば、当時としては時勢の追随を極力 避けた岩波書店の理想をかかげた良心的な出版であった という。

上級に進むに従ってその矛盾する価値観の中で苦悩の 色が濃くなっていったのか。選択の余地なく諦観の心境 だったのか。矛盾を破ることが青春だったのか。

いずれにしろ容易ならざるその時代の中學生像の一端 にふれる思いであった。



## 寄稿 中国労団島への偵察飛行中に戦死した岡村逸夫上飛曹を悼む

斎藤 朝之(中28)

私の同期生に、村松町出身で奥畑寛幸(天山艦攻偵察員、千葉県在住)という者がおります。彼は大分県立竹田中学校から土浦航空隊に入隊し、その後岡村逸夫君(中28)と共に中国・菁島航空隊で偵察教育を受け、実施部隊へ配属されたそうです。奥畑君の御父君は、後に竹田中学校から村松中学校に転任されてきた奥畑寛先生であります。

以下,彼の証言を中心に, 岡村逸夫君の活躍ぶりと戦死の模様を述べてみます。

岡村逸夫君は、海軍甲種飛行予科練習生(第10期)の 学科試験、舞鶴航空隊での一週間にわたる操縦適性検査 に合格し、昭和17年4月1日土浦航空隊に入隊した。 (1,097名入隊、777名戦死)

新潟県の合格者は、受験者200数十名のうち、15名 (11名戦死)であった。

1. 土浦航空隊 昭 17.4.1

陸戦教練、短艇,通信・送受信技術,艦船連用術,航海術、砲術,航空術等の軍事学,数学,理化学,機体・発動機整備実習,艦務実習(戦艦に乗組む),体育などの基礎実習(予科教程)を受けた。

同年10月1日,新設の三重航空隊に移動し、同様の教育を受けた。(500名)

2. 大井航空隊 昭 18.5.24

予科教程を卒業し、飛行練習生債募術特習者として静岡県の大井空に入隊して、いよいよ債察員としての本科教程へ進むことになった。

まず準備教育として、航法、電信機、火工機器、通信の座学が始まった。また偏流測定用の地上演習機を使用して偏流を測ったり、航法計算盤の使用方法も習得した。

3週間後,九○式機上作業練習機に同乗し,今まで習ったことを機上でやってみる。出発前の届出,機上での伝声管による連絡方法,帰着後の報告等いうこと,いうこと,やることを間違えば、すぐ偵察教員のげんこつが飛んできた。

3. 背島航空隊 昭 18.7.17

新緑の茶畑に囲まれた丘陵にある大井航空隊と別れ、 中国大陸の青島へ移動することになった。

7月17日、軍用列車が仕立てられ、佐世保軍港へ向かった。軍港では、ついでにレーダー基地を見学し、同月23日に飛行練習生たちは、特務艦「室戸」に便乗し、出港した。軍楽隊の歓送する素晴らしい演奏は、初めて故国を後にする練習生たちを、大いに励まし士気を鼓舞したのであった。

敵潜水艦からの攻撃を避けるため、青島への直航を取りやめ、朝鮮半島沿岸を進み改めて西南下し、でかったる海をよぎり中国大陸の透信半島をまず望見した。低速の

「室戸」にとっては、なかなか近づけない。快晴の半島 は、緑濃く転在する赤瓦の屋根は美しかった。同月25日、ようやく青島に入港した。

青島航空隊において、岡村君を教育した班長の偵察教員は、甲飛4期生の斎藤昭上飛曹で、班員は13名(うち11名戦死)であった。

- (1) 射爆訓練……機上作業練習機に同乗し射撃訓練は、 口径 7.7 ミリ旋回機銃を操作して、曳的機に引かれて 飛ぶ吹流しを目標として撃つ。同じく爆撃訓練は、海 上の布板目がけて照準機と取組む。照準機内の目標を 正確に前方から後方へ流し、目標と気泡を確実にとら え、爆弾を投下する。
- (2) 航通訓練……航法訓練は,航法計算盤と図板,時計 と偏流測定儀を用い偏流測定,地形偵察,速度試験, 進路決定,推測航法飛行等を行なう。通信訓練は,基本 ・一般・省略交信法,対機通信法,電波転換法,統制 交信法,暗号組立てなど高度な通信技術を習得する。
- (3) 総合演習……九六式陸上攻撃機に同乗し、機長の偵察教員から訓練想定を受け航法、通信等の実戦的訓練を体験する。
- (4) 行軍……青島神社へ,市中行進を兼ね威儀を正して 参拝した。ドイツ軍の築いた青島要塞跡も見学した。 第一次世界大戦のとき,海軍機の偵察員が爆弾を手に 持って、この要塞に投下した。
- (5) 卒業……同年12月24日, ついに卒業の日がきた。卒業者 133名には,機種別と配属先の航空隊が決められた。ほとんどの者は,いったん商船で内地に帰り,そして所属航空隊へ赴いた。
- 4. 佐世保航空隊 昭 18.12.25

岡村逸夫二等飛行兵曹は,数名の同期生と共に佐世保空(水上基地)に移動して,零式(三座)水上偵察機の偵察員となった。ここでは青島空で習得した偵察術にますます磨きをかけていき,近海の哨戒飛行や対潜哨戒等に従事,活躍した。

零式水偵は、戦艦、巡洋艦、水上機母艦、水上基地に配備され、航空距離は2,600 キロという長大な航続性能を利して、太平洋の全戦域で活躍した。全幅15メートル、全長12メートル、全備重量3.7トン、最高時速376 キロ、口径7.7ミリ、機銃1被5 爆弾250 kg 1 個搭載で、3人乗務であった。

5. 第九五一式航空隊 昭 19.12.15

岡村君は、昭和19年5月に一等飛行兵曹、同年11月に 上等飛行兵曹に進級した。そして翌12月15日に佐世保空 は、第九五一航空隊に統合された。司令は、元土浦空司 令(後に空母「赤城」の艦長)の青木泰二郎大佐であった。 さて、全般の戦況として昭和20年3月17日硫黄島玉砕、

4月1日米軍沖縄に上陸,4月6日から沖縄の米軍艦船等に対する菊水作戦(神風特別攻撃隊の発進)が発動された。

◎岡村逸夫上飛曹 戦死 昭 20. 5. 24

場所 東シナ海

状況 佐世保基地発進,中支舟山島に向け飛行中 (未帰環)

ての日,岡村上飛曹は、いつものように2人の搭乗員と共に零式水上偵察機に乗り込み、佐世保水上基地から離水して、偵察飛行中のため中国の舟山島へ向かった。 舟山島は上海の南方、杭州湾の湾口に連なり並んでいる 舟山列島のうち、いちばん大きな島である。

佐世保基地から舟山島まで約800 キロ, しかし零式水 偵の2,600 キロという長大な航続性能をもってすれば.

> 岡村逸夫君の土浦航空隊を祝し, 同級生と共に記念撮影 昭和17年3月



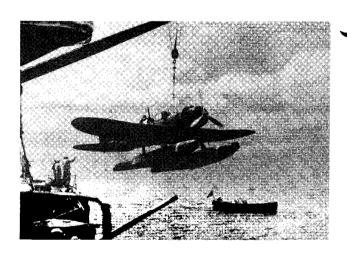
(後列左より)故加藤陸郎,故斉藤正夫,藤田精作, 神田敏夫,貝瀬 弘

(中列左より) 故佐藤正義,長谷川武夫,田中練爾, 鈴木 猛

(前列左より) 故村川修一, 五十嵐欣治, 故岡村逸 夫, 故保科辰衛, 宮嶋昌世 楽に往復できる距離である。岡村機は,東シナ海を偵察 飛行中に,たまたま米空母から発艦し飛行していた艦上 戦闘機に発見され,銃撃を受けたのであろうか。岡村機 はこの日を最後に,佐世保水上基地に遭らなかったので ある。

黄海や東シナ海を飛んで中国本土へ向かうのは、彼に とって1年以上も通いなれた飛行コースであった。その コース上で、航法計算を誤り、不方不明になろうとはま ず考えられない。きっと思いがけない事態に、遭遇した のだ。

大空にあこがれて海軍航空機搭乗員となり、愛国の至情に燃え、自分に与えられた任務を使命感と勇気をもって果たし、ついに戦死した岡村逸夫君に対し、ここにあらためて深い哀悼の意を捧げたい。



巡洋艦からカタパルトで射出された零式水偵は, 偵察飛行を終えて帰着,海上に着水し,デリック によりつり上げられ,再び巡洋艦に搭載される。

## 平成6年度支部大会開催のお知らせ

平成6年度(第37回)松高同窓会を

6月4日(土)午後3時(受付2時) より上野不忍池畔 池之端文化センター で開催いたします。お誘い合せの上,多くの方々の出席をお願い いたします。

(前回の会場と同じです)

# 村松藩々祖 堀置詩公の父 直奇公の銅像が長岡に建立されます

先般,村松藩堀家の末裔である東京支部会員,堀直昭氏から広報部に送られてきた表記銅像建立の趣意書を読んだ。それによると最近,長岡市にある蔵王堂(現長岡)城跡保存会の方々が堀奇公の業績顕彰のため現長岡城跡公園に公の銅像を建立する計画を立てられ、事業費約二千三百万円を目標に広く市内で募金活動を行っているとのことである。そしてこれを知った直奇公に縁のある村松関係者の間で相談した結果,これを黙視する事は出来ず、これに協力し、一口一万円の浄財を募っている事である。

東京支部へは会報を通じて広く知って頂くようにとの要請もあり、紹介ついでと申しては失礼だが、村松藩の起源にも茂んでみた。詳しくは直接、堀直昭氏(直奇の弟、家老職堀玄蕃直里家の直系)に問合せしてみるのもよいと思う。発起人及び関係者の中で東京支部では中村勤氏(旧中20回・村松七士、中村勝右衛門直系)堀哲二氏(旧中24回・堀半兵衛家直系)の名も挙がっており、村松郷土史研究会会長の佐藤久氏の名も見える。

堀直奇は天正五年(1577)美濃に生れ,豊臣秀吉に近仕の後,慶長三年(1598)父直政に従って越後に入封,二十一才で坂戸城主となった。仝七年,新任の蔵王堂(現長岡)城主鶴千代の後見役として蔵王堂城詰兼任,仝十一年(1606)鶴千代死去により蔵王堂城兼任城主となる。この時二十九才。仝十五年(1610)信州飯山へ転封するまでこの間八年間であった。

元和二年(1616)再び蔵王堂城主となって八万石, 元和五年(1619)村上城主へ転封、十万石となるまで 三年,通算十一年間,長岡に在勤することになる。そし て以後村上藩々主として在任し,寛永十六年六月十九日 江戸で死去した。この時六十三才であったという。

幕府は直奇没後,遺領の十万石を十三万石に高直しし十万石を公の孫,置次に当て,村上藩を相続させ,残る三万石を直奇の次男,置時に分けて分家させた。この中に安田,笹岡,見附等の領地が含まれていたが,当時村松はまだ村上藩領であった。寛永十九年(1642)直次が死去,この時まだ七才であったので当然ながら後嗣なく,村上藩堀家は断絶することになる。正保元年(1644)安田,笹岡と村松地方の領地替えが行なわれ,在所が村松と定められ,直時の次男二代目置書が入国し村松藩が成立することとなった。

そして明治四年(1871)明治新政府による廃藩置県の大改革が行なわれるまで、実に二百二十余年に及んだ 堀家村松藩政が十二代堀直弘を最後として幕を閉じることになるのである。

直奇が村上藩在任当時,江戸幕府の外様大名統制政策 にもかかわらず,村上藩堀家改易後(直次死亡後)の堀

家を村松藩という形で、幕末まで存続させたのは公の深 慮遠謀の計れがあったものと言われている。武将として も政治家としても公が当代一流の人物と評価される所以 は様々あるが、特に任地における農商業の振興と都市計 画の実施は見逃せない事実である。村上は直奇の代に初 めて近世城下町の威容を整えたと云われ、新潟(当時新 潟は長岡藩領) と長岡は総べて公が縄張りをして造った 町と云われ,新潟は今や日本海側最大の都市に,長岡は 県下第二の都市に発展している。直奇が村上へ転封した あとに長岡(蔵王堂城)の城主となった牧野忠成は幕府 の要請もあって江戸に在り、寛永七年(1632)まで十 三年近くも入国出来なかった為か, 新政策も打出されず, 明歴三年(1657)の改制まで「しきたり」と称して「堀 | 丹後守御証文通り | として堀氏の制度を踏襲し、何らの 不便ももたらさなかったという。その事でも公の施策が 勝れていたことが分る。長岡と云えば牧野公が殿様と今 でも一般によく知られているが、直奇公の業績をよく知 っている人達にとっては、さぞ残念なことであろう。

直奇の遺体は公の建立した上野凌雲院に葬られ、生前、親交のあった有名な沢庵禅師から法号が贈られている。 上野駅公園口前に建つ文化会館は凌雲院の跡地で、その後大円球の墓は昭和30年に渋谷の長泉寺に移されている。

以上, この稿を起すに当っては, 前述の堀氏から送られた趣意書, 同封の野口政昭氏の解説文, 前に支部会員の福原平八郎氏(旧中26回)がら送られた村松藩物語の歴代藩主リストを参考にした。又支部会報 \*\*臥龍ケ丘は緑なり、2号から4号までに佐藤久氏の郷土史探訪が連載されているので再読してみるのも興味ある事と思う。記述に間違いがあるかも知れぬ, 御教示願えれば幸いである。

堀直昭氏の住所は、〒 413-02 静岡県伊東市八幡野 1332-37 すいらん荘 6-53 電話 0557-53-3178

(中27回 東京支部長 佐伯益一)



『堀直奇公立象』建立予定の



五泉一村松街道から見た菅名岳(8月17日, 雨あがりの午後 撮影)

## 寄稿

\*散 步 高10回 大橋 貞夫

体育の日,張り切って5時半に起きる。7歳になる我が家のチャロは、早くも気配を察しゴソゴソ動き回っている様子だ。彼の生きがいは散歩と雌犬、やはり飼い主に似るのだろうか? さわやかな冷気に秋の気配を感じつつ近くの河川敷まで出る。

グランドと多摩川の間は一面のススキ原で白い穂が風 にゆらぐ中, 黄色の花が所せまく混在している。アメリ カからの帰化植物, セイタカアワダチソウと豚草が日本

## 支部幹事会

- ◎ 7月17日,午後 3 時,於,エース高輪 支部大会反省会,会報発送作業,懇親会出席24名
- ◎ 8月4日,午後2時,於,ツルマキ 会報編集会議,会則検討,出席6名
- ◎10月23日,午後3時,於,東京新潟県人会館 ;会則審議他 出席19名
- ◎10月30日,午後2時,於,ツルマキ 編集会議,出席4名
- ◎予定, 12月中旬, 会報第16号発送作業, 終了後, 望年 会予定, 会場未定
- ◎新幹事

旧中第34回卒の高久貞夫さんが新らしく幹事に選ばれました。(10.23) よろしくお願い致します。

#### 編集後記

◎ あけましておめでとうございます。

会報第16号をお届けいたします。今回は、たくさんの記事や寄稿があったため、掲載出来なかったものもあり、次号にまわさせて頂きました。

尚、旧高女の皆様からの寄稿が少いようです。何で

のススキ原へ侵攻、激しい陣取り合戦を繰り返しているのだ。ふと、日米貿易戦争を連想していると、ポケットラジオから〇銭円高の105円〇〇銭の円ドル情報、ススキよ頑張れ!!

野球場13, サッカー場 2, テニスコート3, 此処は大勢のジョギング, 散歩姿の人達が集ってくる。今の時期, 確かに肌の露出度が減って夏は終った。秋, 冬, 春, 夏, 私とチャロの散歩はまだ続く。

#### 計 報

大橋 文夫氏 (旧中19回) 7月15日 茂野 宏一氏 (旧中24回) 7月16日 村田泰次郎氏 (旧中14回) 8月 伊藤千恵子さん (旧高女26回) 9月12日

> 東京支部では上記の皆様が死去されました。謹んで 哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。



も結構です。奮ってお寄せ下さい。寒い正月になりそうです。風邪などにお気をつけ下さい。お酒も程々に。 本年もどうぞよろしくお願い致します。

広報部一同

平成6年1月 第16号

発行人:新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

広 報 部

事 務 局 **〒**108 東京都港区高輪 2 - 1 - 24 ㈱ 寿 内

TEL 03-3445-6501

郵便振替 東京 2-136445